

「世界」を認識する ～「世界」って何だろう?～

目標

●知識及び技能

理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。
(1)イ

●思考力、判断力、表現力等

文章を読んで考えを広げたり深めたりして、言葉について、自分の考えを持つことができる。
C(1)エ

●学びに向かう力、人間性等

言葉が持つ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。

評価規準

●知識・技能

〔知技1〕 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。

●思考・判断・表現

〔思判表1〕 「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、言葉について、自分の考えを持っている。

●主体的に学習に取り組む態度

〔主1〕 進んで読み取ったことをもとに考えを広げたり深めたりし、学習課題に沿って、自分の考えを話し合おうとしている。

指導案の概要

「世界への入り口」は、「言葉」を通じて未知の「世界」とつながる経験が描かれた作品である。言葉は私たちに影響を与え、私たちの世界を作る。自分とは異なる世界や存在を受け入れるための入り口が言葉である。台湾で生まれ日本で育った筆者自身が、日本語と中国語が混ざり合う世界にどのように入っていったのか、言葉と世界の関係を深く考えることができる作品といえよう。そこで、本単元では、①語彙形成（概念形成）、②多読による探究（重ね読み）・生成AIの活用、③哲学対話（交流活動）の3点を取り入れて授業を構想した。「世界」という言葉に焦点を当てつつその意味を多面的に捉え、語が持つ意味や概念について探究していく学習を展開したい。

学習の流れ

時	学習活動	学習・指導の具体例	評価規準・評価方法
1	<p>①本文を読んで考えたことを話し合う。</p> <p>②重ね読みをして、「世界」という言葉の持つ意味について多面的に考える。</p> <p>③生成 AI との問答を通して自分の考えを形成する。</p> <p>④自分の考えをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「世界への入り口」を読み、ここでいう「世界」とはどのようなことを考える。 発問例 「世界への入り口」に書かれている「世界」について「言葉」との関係をもとに話し合ってみましょう。 現代の随筆と重ね読みしながら「世界」というものの概念を掘り下げる。 ※書籍「中高生のための表現読本」(石丸恵彦・向坂くじら・澤田英輔・森大徳・編、筑摩書房、2025年)に収載された作品から、「水中の哲学者たち」(永井玲衣)、「クルマ世界の住人」(奈倉有里)、「私はゴッホにゆうたりたい」(川上未映子)などが参考になる。 生成 AI に「世界」について問い、「打ち返し(壁打ち)」(返ってきた答えにさらに質問し回答の質を高める方法)で思考を深掘りしていく。 「世界」についての考えを自分の言葉でまとめる。 発問例 「世界」について考えたことをいくつかの視点でまとめてみましょう。 ※ノートに自分自身の観点を抽出してまとめる方法や、生徒相互が交流できるスプレッドシート等にまとめる方法がある。 	<p>知技1 (ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「世界」についてどのように認識したのか、さまざまな作品からどのように「世界」という言葉を見ているのかを確認する。 <p>思判表1 (ノート・ワークシート・生成 AI へのプロンプト)</p> <ul style="list-style-type: none"> 重ね読みや生成 AI との問答を通して考えたことをまとめているかを確認する。
2	<p>①哲学対話に取り組む。</p> <p>②学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 4～6人のグループを作り、「『世界』って何だろう？」という題で哲学対話を行う。 発問例 「『世界』とは……」と自分の言葉で定義づけ、話し合ってみましょう。 「『世界』って何だろう？」という問いを持ってさまざまな作品の中から「世界」について考えてみるとよい。その際、「『世界』とは……」という型で考えさせるのが有効である。 哲学における「存在論」(何が存在するのか)、「価値論」(何が重要か)、「認識論」(どう知ることか)の三つの視点から、「世界」についての考えを掘り下げる。 学習を振り返って、学んだことや、学んだことを今後どう生かすかを、自分の言葉でまとめる。 発問例 「『世界』って何だろう？」という問いを通して、これまで自分が考えなかった概念に触れて感じたことをまとめてみましょう。また、これらの考えは今後、どのようなことに役立つでしょうか。 	<p>主1 (発言・ノート・観察)</p>